

「現地に行っただからこそ学ぶことができた」



団長 浅野知子(八百津東部中学校校長)

・ホームステイで最初は自分から英語を話すことができなかった焦ってしまっていたが、日がたつにつれて自分から話せるようになった。ホストファミリーの皆さんが、とても親切にしてくださった。感謝の気持ちでいっぱい。

・日本と外国との文化や習慣の違いに驚くこともあった。英語でコミュニケーションすることが楽しくなった。英語が好きになった。将来英語を使う仕事ができるようになりたい。

・今まで学んできたことは紙とか平面だった。実際にその場に行く、アウシユヴィッツはとても大きな収容所だった。杉原千畝さんは自分や家族が危ない目にあってもすごいことをした。

・ユダヤ人迫害のスタートは街角のうわさ(「ユダヤ人嫌い」「ユダヤ人、出て行け」からだ)と聞き、驚いた。悪口を言うことは今で言う「いじめ」につながる。自分の発する言葉には気を付け、自分が本当に正しいことをしようとしているのかよく考えて行動していきたい。

・ヒトラーだけが悪いのではなく、見て見ぬふりをしていた人たちもいた。見て見ぬふりしないことは、学校生活でもできること。

・命の大切さ、杉原千畝さんの偉大さを学んだ。杉原千畝さんは6千人の命を救った。杉原ハウスでは「杉原サバイバー」の息子さんの話も聞くことができて、命が繋がっていることを実感した。

これは、最終日、八百津に帰るバスの中で、生徒一人ひとりがこの研修で学んだことを発表しあった内容です。

生徒は、事前研修などで学んだ知識やこれまでの経験と現地での貴重な体験を結びつけ、杉原千畝氏の偉大さや命の尊さ、人と人とのつながりや自分のこれからの生き方などについて、改めて深く、また多面的に考えることができました。

以下、研修中の主な出来事と、生徒の様子についてご報告します。

研修初日、ホストファミリーと初めて対面しました。参加した生徒は、家族全員から笑

顔で迎えられ、ほっとした様子でした。

すべての生徒にオリジナルデザインのキャップ(黄・緑・赤のリトアニア・カラー)がプレゼントされ、とても喜んでいました。

その後、ホストファミリーと一緒に各家庭に向かい、4日間のホームステイがスタートしました。

2日目、両校代表生徒が、リトアニアの首都ヴィルニウスにある「日本国大使公邸」を訪問し、重枝大使と夫人から温かく迎えていただきました。

3日目・4日目は、生徒全員でカウナス市役所や、杉原ハウス(旧日本領事館)など、